

畑作経営の展開と土壌改造の意義

第2報 畑作経営の展開方向

村上哲太郎・中村 博泰

(岩手県農業試験場)

1 ま え が き

岩手県では、土壌改造技術が農家に普及されつつあるが、改造実施農家の現状分析から作物の変遷とか、増収効果、持続性、更には、資本の投資などに関する土壌改造のもたらす意義と技術に対する農家の評価については、第1報で報告した。第2・3報では、土壌改造技術の導入に伴って発生する畑作経営の新たな展開方向と、作目の構成変化による大きな特徴点を明らかにしたい。

2 試 験 方 法

第1年度に引き続き、同一調査地域を中心に前年度の資料を整理しながら、精密な追加調査を実施し、時系列的に経営の変化と土壌改造の導入の関連を検討した。

3 試 験 結 果

1. 畑作経営の展開と志向

土壌改造技術が農家に導入され始めたのは41年以降であり、導入前と導入後の作目の構成には明らかな変化が見られる。

40年までは、経営内における基幹部門の酪農とかタバコ部門の拡大が盛んで、機械導入投資の拡大が見

られる。土壌改造技術の導入後は、今まで悪質の土壌により自給的な野菜もできなかった地域に商品作物としての野菜が栽培され、以降急激に経営内における作目の構成変化が見られる。今まで基幹部門であった作目を縮小したり排除しながら、新しい商品作物を導入し、拡大しながら畑商品化が急激に進展していることが明らかに認められる。

これらの変化は、調査地域により異なり、自然立地の相違はもちろんのこと、開拓農家、既存農家などの相違や、普通作から商品作の転換のステージの相違、更には展開過程での部門構成の相違などいろいろの違いが認められる。この現象は、経営主の将来の経営タイプの志向の相違を示すものであり、その結果作目の選択とそれに対する固定投資の相違を示すことになる。

第1表に示すとおり、調査農家の経営タイプの将来志向は、野菜作の性格を知っているにもかかわらず、不安定な(価格変動が大きい)野菜専門を目ざす農家と、逆に一時期野菜を導入してもその後排除してゆく農家に分かれる。他は安定した部門と不安定な野菜部門の組合せを希望し、それぞれ投資がなされている。このことから、土壌改造投資は野菜導入の前提と見られ、改造実施のパターンを規定していることが明らかである。

第1表 経営タイプの将来志向分類

(単位：戸)

		不 安 定 部 門					計
		無	野 菜	レ タ ス	リンゴ+野菜	野菜+ブタ	
安 定 部 門	稲 作	1	5				7
	酪 農	2	4	4	1		12
	タ バ コ			2			2
	ホ ッ プ			1			1
	水 稲+酪 農	2					2
	水 稲+タバコ			1			1
	ホ ッ プ+タバコ		1	1			2
	無		2			1	3
	計	5	12	9	1	1	28

2. 畑作経営部門構成の性格分類

畑作経営の発展のパターンを農家の実態から整理すると、各部門の性格の組み合わせから第2表のように整

理され、6つのタイプ分類となる。今までの畑作経営の展開の経過から部門の追加と拡大には常にその部門の固定投資額と収益性及び安定性が重要な決め手とな

る。そのため、固定投資については部門新設、拡大に大きな投資を要するものと比較的小さくてすむものに分類でき、また作目別に価格変動の面から安定部門（契約栽培、価格保障のあるもの）と不安定部門（市

場競争にさらされるもの）に分けられる。これらの部門の組合せは農家の実状から例を示すと第3表のとおりである。

第2表 部門構成の性格分類

固定投資 \ 安定性	安定部門	安定部門+不安定部門	不安定部門
大投資部門	I		
大投資部門+小投資部門	II	IV	
小投資部門	III	V	VI

第3表 部門構成の性格別事例

項目 \ 性格	部門の組合せ事例
I	酪農, ホップ, 酪農+ホップ, リンゴ
II	酪農+稲作, 酪農+タバコ, ホップ+稲作, ホップ+タバコ, リンゴ+稲作, 酪農+稲作+タバコ, ホップ+稲作+タバコ, 酪農+ホップ+稲作, 酪農+ホップ+稲作+タバコ
III	稲作, タバコ, 水稻+タバコ
IV	酪農+野菜, ホップ+野菜, 酪農+ホップ+野菜, リンゴ+野菜, 酪農+稲作+野菜, 酪農+タバコ+野菜, ホップ+稲作+野菜, ホップ+タバコ+野菜, リンゴ+稲作+野菜, 酪農+稲作+タバコ+野菜, ホップ+稲作+タバコ+野菜, 酪農+ホップ+稲作+野菜, 酪農+ホップ+稲作+タバコ+野菜
V	稲作+野菜, タバコ+野菜, 稲作+タバコ+野菜
VI	野菜

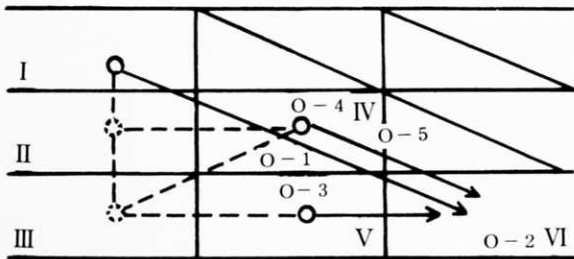
3. 経営展開の方向性

きく分けて第4表のとおり4つに区分できる。

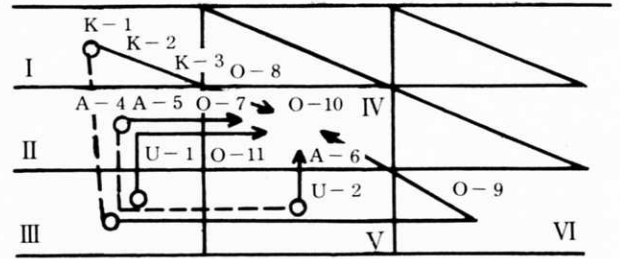
上記の性格分類から畑作経営の展開のパターンは大

第4表 志向による経営展開

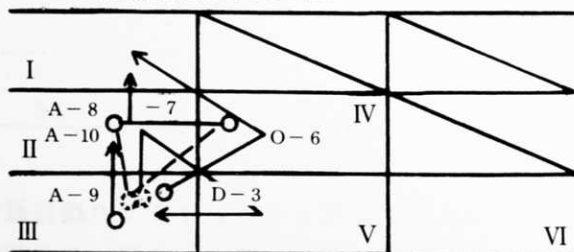
i) 小投資不安定部門志向型



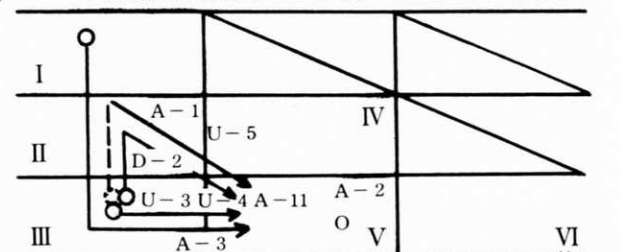
iii) 大投資安定部門+小投資不安定部門志向型



ii) 大投資安定部門志向型



iv) 小投資安定部門+小投資不安定部門志向型



注) K: 区界、O: 奥中山、A: 青笹、D: 田頭、U: 上湯沢

i) のタイプは、小規模投資不安定部門志向型であり、展開の経路に種々の相違があるにしても将来の経営志向をⅥとするもので、価格が不安定であるが、収益性の高い野菜専作経営志向タイプである。

ii) のタイプは、大規模投資安定部門志向型であり、経営志向の目標をⅠとするもので、経営規模の拡大をしようとすれば、投資額が大きく、しかも収益は著しく高くないが、安定した経営となる酪農やホップ作経営志向タイプとみられる。

iii) のタイプは、大規模投資安定部門と小規模投資不安定部門との複合経営志向型であり、経営志向の目標を当面Ⅳとするもので、i) タイプとii) タイプの持っている高い収益性と安定性の両方を兼ね備えた経営を目標とするもので、規模拡大における投資額を低く抑えて、収益性を高めるために酪農やホップ作と野菜の複合経営志向型である。

iv) のタイプは、小規模投資安定部門と小規模投資不安定部門との複合経営志向型であり、経営志向の目標をⅤとするもので、投資額を低く抑えて安定ではあるが収益があまり高くない部門に不安定ではあるが収益性の高い部門を組み合わせ所得の向上を図るため稲作やタバコ作と野菜の複合経営志向型である。

このような4つの経営志向型の中で、iii) のタイプの事例が多く、畑作経営における経営展開の方向の大勢を示している。

もちろん畑作経営一般としては、この他に種々のタイプがあり、それぞれ展開の方向を異にするものと思われるが、少なくとも畑作経営として自立化を図ろうとすれば商品畑作目の規模拡大が必要であり、そのためには土地面積の拡大投資を除いても固定投資額の大小が問題となり、同時に或る程度の収益性の水準とともに商品作目の価格の安定性が問題となろう。

畑作経営の展開と土壌改造の意義

第3報 畑作経営の展開における作目変換の特徴

村 上 哲 太 郎

(岩手県農業試験場)

1 ま え が き

第1報、第2報参照

2 試 験 方 法

第1報、第2報参照

3 試 験 結 果

1 経営展開のタイプ分類とタイプ別土壌改造の意義

第2報の第4表に示したように畑作経営の将来目標を大きく4つに分類できるが、更にその展開の過程も含めて分類すると第1表のように11のタイプに細分される。

まず、過去に大規模な投資部門を持っていたか否かにより2つに分類でき、大投資のなかったタイプではⅥを目標とするものとⅤを目標にするグループに区分される。一方、過去に大投資部門のあったタイプでは更に小規模投資不安定部門を排除してゆくグループと大規模投資安定部門を排除してゆくグループ及び大投

資部門と小規模投資不安定部門を共に持つ経営を目ざすグループの3つに分類できる。また、これら各グループはそれぞれ3つに細分可能である。

以上のように11タイプごとに土壌改造の持つ意味が異なる。

①②のように過去に大投資のなかったタイプでは農家の経済力が弱い、又は、補助事業などに恵まれず大投資部門への転換の契機がなかった農家に見られ、経営展開の過程で土壌改造の導入により安定的な栽培を可能にし、野菜部門の追加と拡大を促したことに意義がある。

③④⑤のように大投資部門を有し、野菜部門を一時的に追加したが、その後排除してゆくタイプであり、このタイプでは安定的な部門を拡大する過程で投資力がなく停滞した時期に所得の確保をしつゝ安定的な部門を拡大する準備段階で土壌改造技術は経営の再生産を促す重要な役割を果たしている。

⑥⑦⑧のように大投資部門を排除してゆくタイプにあっては、酪農などの固定投資額の大きい部門を有しながらも投資余力がなく、しかも今後その部門拡大の